



コロンビア国：デジタルプラットフォームを活用したルーメン微生物フローラと草地管理の最適化による牛肉バリューチェーン創出プロジェクト



5月25日、SATREPSプロジェクト・チームは、JICAコロンビア支所安全担当者とプロジェクト成果2の活動に協力して



くれているコロンビア県内の肉牛生産農家2カ所を訪問し、今年8月、日本側プロジェクト関係者(名古屋大学、中部大学、科学技術振興機構)の来訪に備え、プロジェクト・サイトの事前確認を行いました。

今回の訪問中、プロジェクト業務調整員は、コロンビア畜産協会(FEDEGAN)に提供した物品2つ



(牛体測定用テープメジャーと牧草用計量器)を生産農家に手渡すことができました。

コロンビアでは、ウシの体重計測を手書きで記録していることが大半であり、余りデジタル化は進んでいません。本プロジェクトでは、トレーサビリティや「Grass-fed」認証が可能になるような仕組みづくりに

も取り組んでおり、生産農家からも大いに期待されていることが伺えました。



訪問した生産農家では、プロジェクト成果2の担当であるコロンビア農業・牧畜研究公社

(AGROSAVIA)の職員

により、ウシのルーメン液(第一胃液)の採取は実施されており、現在は子ウシの標準生育曲線を作成するため、生産農家に協力を得ながら、出生時からの体重計測(6回:生後0日、1か月、2か月、4か月、6か月、7か月)を行っています。



2月23日、Rancho Alegre農場にて、ウシのルーメン液を採取している様子

プロジェクト概要は、こちらのQR字コードから



JICAコロンビア支所 Facebook



Follow us